

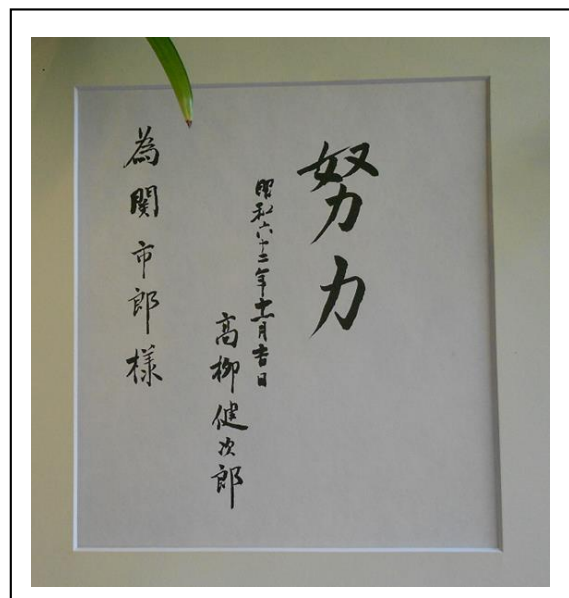
平成27年1月19日

関 市郎

高柳先生とのご縁について

高柳先生とは先生が存命中に2回、お亡くなりになってから1回、都合3回ご縁がありました。先生が存命中の2回とも私が静岡ビクターの代表者として静岡に在住した時です。

当時私はビデオ事業部から静岡へ転勤して間もない時期でしたが、何とか静岡を全国販売会社の中でトップクラスの会社にしたいという強い思いを持っており、どのような契機で先生の事に思い至ったのか定かではありませんが、静岡のご出身で国内はもとより世界的に著名な「テレビの父」であり、日本ビクターの副社長としてビクターカラーテレビの原点ともいえる存在の先生。しかしながら営業の現場から見ますと、はるか向こうの遠い存在、静岡の地元の特約店様にとっても名前は知っているけれども実際に会ったこともないし、ましてやお話を聞いたこともない存在。このまま先生を雲の上の存在のままでは業界にとってもビクターにとっても如何にも勿体ない。宝のもちぐされとなる。この際地元静岡のため、先生に一肌脱いで頂けないだろうか考えるに至りました。幸いにも国内営業の大先輩で九州時代から親交のありました高柳財団の前事務局長の原田さんが本社秘書室におられましたので、その旨お願いした所快く仲介の労をとって頂きましたので、1987年（S62年）11月20日先生にご来静頂き、静岡の日本平ホテルで静岡地区の特約店講演会を開催することが出来ました。特約店様からも大変感謝され大成功でした。光栄にも先生と一緒に



に写真をおとり頂き、後日丁重なるお礼状も頂きました。色紙を書いて頂けると
いう事でしたので、私の要望で「努力」の文字をお書き頂き大変感激致しました。

2回目は先生がお生まれになった浜松地区の特約店講習会を、翌年浜松グラ
ンドホテルで開催致しました（1988年（S63年）6月3日）。その時先生も
大分お年を召しておられましたので、お話しの途中時に言葉がとぎれることが
あり、何かあったら大変だなと、お話の内容よりお身体の方が心配だったことを
鮮明に覚えております。後日原田さんからですが、当時の宍道社長から「ご高齢
なのであまり無理をさせてはいけない」と言われていた様です。

3回目は先生が他界され、私が静岡からビクター興産へ転勤してからのこと
です。定年まで残り4年弱となり、何か少しでも会社のお役に立てればと考え、
ビデオ事業部での人脈を生かして社史編纂等の新規事業をすすめておりました
時、定年後高柳財団の事務局長になった原田さんから、高柳先生の生誕100年
記念で何か良い企画がないものかとのご相談がありましたので、ビデオソフト
を制作してはどうかと提案しました所、それはいい企画だと賛同を頂き、このプ
ロジェクトがスタートしたわけですが、正直申し上げて、お金はどうするのか、
どのような手段ですすめていくのか、大変迷いました。ビデオ営業の盟友であつ
た菅谷さんに相談した所、資金的にも工数もないしとても無理と難色を示して
おりましたが、最終的にはご協力を頂きました。また先生がビデオ開発について
も大変関心をお持ちでしたので元取締役の廣田さんにもプロジェクトメンバー
になって頂きました。資金面と関係先の取材まとめは私が担当し、ほぼ2年がか
りで何とか定年（1999年1月）ぎりぎりまで完成することができました。私に
とりましてこの「テレビの父」高柳健次郎生誕100年記念のソフトは、私のビ
クター卒業記念として大変誇りに思っておりますし、会社に対しても「いい仕事
ができた」と自負しております。資金面、取材協力等、多くの皆様のご尽力を頂
き深く感謝致しております。高柳先生とのご縁につきましては全て元財団の原
田信美さんとのご縁につきると言っても過言ではありません。衷心より厚く御
礼申し上げます。

以上